



SIM SONIC DESTRUCTION 2

清水圭飛行機模型筆塗り塗装テクニク2

清水圭 / 著

Kei Shimizu

大日本絵画

Dainippon Kaiga

ACADEMY 1/48 MITSUBISHI A6M2 TYPE0 CARRIER FIGHTER /

HASEGAWA 1/32 MITSUBISHI J2M3 RAIDEN (JACK) / HASEGAWA 1/48 AICHI B7A2 RYUSEI (KAI) (GRACE) /

HASEGAWA 1/32 FOCKE-WULF Fw190D-9 / HASEGAWA 1/32 MESSERSCHMITT Me262-1a/UT /

TAMIYA 1/48 GRUMMAN F-14A TOMCAT / HASEGAWA 1/48 SAAB J 35D DRACEN / AZ model 1/48 SAAB J 29F TUNNAN



SIM SONIC DESTRUCTION 2

清水 圭 飛行機模型筆塗り塗装テクニック 2

清水 圭／著
by Kei Shimizu



TAMIYA 1/48 GRUMMAN F-14A TOMCAT

CONTENTS

目次

PREFACE

004..... 前書き

THE EXPECTED AUDIENCES CONTINUED

007..... 続 この本はこんな方のためのものです

PAINT AND PAINT BRUSHES

008..... 塗料と筆

THE "SIM" METHOD

010..... 清水流基礎知識 2025

SIM'S BASIC PAINT

012..... SSD ですべての基本となる塗装方法

CHAPTER 1

ACADEMY 1/48 MITSUBISHI A6M2b TYPE0 CARRIER FIGHTER

014..... アカデミー 1/48 三菱 A6M2b 零式艦上戦闘機 二一型（隔月刊スケールアヴィエーション 2024 年 9 月号（Vol.159）掲載）

CHAPTER 2

HASEGAWA 1/32 MITSUBISHI J2M3 RAIDEN [JACK]

030..... ハセガワ 1/32 三菱 J2M3 雷電二一型（2024 年 本書用作り起こし）

ADVANCED APPLICATION 1

応用編 1 架空イギリス機仕様を作る

HASEGAWA 1/48 AICHI B7A2 RYUSEI KAI [GRACE]

048..... ハセガワ 1/48 愛知 B7A2 流星改（隔月刊スケールアヴィエーション 2023 年 11 月号（Vol.154）掲載）

CHAPTER 3

HASEGAWA 1/32 FOCKE-WULF Fw190D-9

054..... ハセガワ 1/32 フォッケウルフ Fw190D-9 後期型（隔月刊スケールアヴィエーション 2025 年 1 月号（Vol.161）掲載）

ADVANCED APPLICATION 2

応用編 2 ドイツの大戦機を作る

HASEGAWA 1/32 MESSERSCHMITT Me262B-1a/U1

072..... ハセガワ 1/32 メッサーシュミット Me262B-1a/U1（隔月刊スケールアヴィエーション 2020 年 7 月号（Vol.134）掲載）

CHAPTER 4

TAMIYA 1/48 GRUMMAN F-14A TOMCAT

080..... タミヤ 1/48 グラマン F-14A トムキャット（隔月刊スケールアヴィエーション 2025 年 1 月号（Vol.161）掲載）

ADVANCED APPLICATION 3

応用編 3 シルバーのジェット機を塗る

HASEGAWA 1/48 SAAB J 35D DRAGEN

098..... ハセガワ 1/48 サープ J 35D ドラケン（隔月刊スケールアヴィエーション 2019 年 7 月号（Vol.128）掲載）

AZ model 1/48 SAAB J 29F TUNNAN

102..... AZ モデル 1/48 サープ J 29F トゥンナン（隔月刊スケールアヴィエーション 2012 年 7 月号（Vol.86）掲載）

CHAPTER 5

A TALK WITH SHU-HEI MATSUMOTO

104..... 清水 圭 × 松本州平 筆塗りの極意と気概の狭間で





ACADEMY 1/48 MITSUBISHI A6M2b TYPE0 CARRIER FIGHTER

PAINT AND PAINT BRUSHES

清水流の筆塗り仕上げに使用するのはこのページに載っているツールやマテリアルだけ。どれも手軽に入手可能で価格もお手頃なものばかりとなっている

塗料と筆

SSDブラシ(平筆) ●モデルカステン

清水氏監修の筆塗りに特化した平筆。繊細な弾力でしなやかな筆運びが可能、毛質は化繊100%、うすめ液への耐久性を考慮してチタンを配合している。飛行機模型のスケールサイズ1/72、1/48、1/32にあわせて筆幅も4.0mm、5.0mm、6.5mmの3種を用意

SSDブラシ(丸筆) ●モデルカステン

毛質は100%化繊でチタンを織り込んでいるため非常にしなやかな毛先で塗料の含みも良好。現用艦載機の補修痕のような、平筆ではニュアンスが描ききれない箇所の筆塗りに最適。平筆と同様、うすめ液に対する高い耐久性を実現しているのもポイントだ。サイズはMとLの2種をラインナップ

コリンスキー模型用面相筆 0号/S ●モデルカステン

最高級コリンスキー毛を使用、穂先はバラツキを抑えてまとまりが良く、塗料の含みも良好。穂先の長さを6mmと短くすることでより繊細な塗装に適している

メイクアップ綿棒 ●ダイソー

ウォッシングの拭き取りに大活躍するのが綿棒。汚れたらどんどん交換していくものなので100円均一ショップで入手できるものをチョイス。ただし安ければよいというものでもなく、サイズ感と先端が崩れにくい硬さのメイク用を推奨したい

極細竹ようじ ●モデルカステン

ハイクレード模型用 ●セメダイン

ここで紹介する接着剤は一般的な組み立て用ではなくキャノピーなどの接着に使うもの。瞬間接着剤のように曇ったりせず乾燥時間に余裕があるのもポイント。竹ようじは接着剤を塗布するときの applicator で、はみ出した接着剤の除去にも使える

6



▲プロペラの表はHSM01 スーパーファインシルバーで塗装、H21 グランプリホワイトでタッチを入れる。プロペラは回転方向、スピナーは整備の手が触れることを念頭に

7



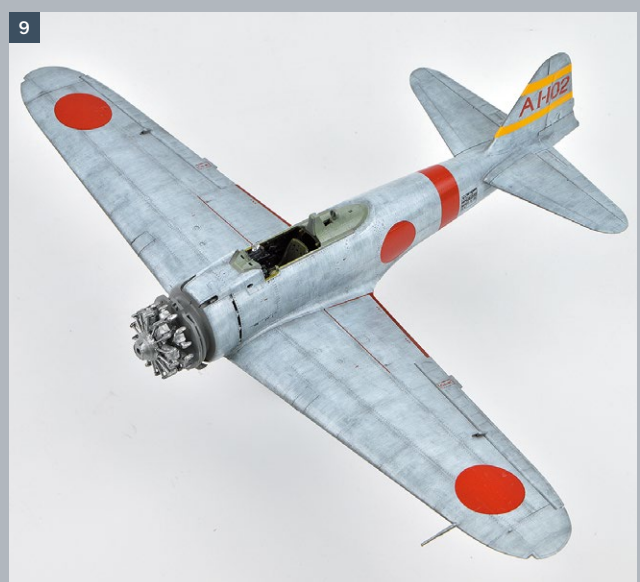
▲プロペラの裏面はH47 レッドブラウンを基本色として塗装。H66 RLM79 サンディブラウンでタッチを入れていく。ここはあまり明度を上げ過ぎないのがポイント

8



▲カウリングはH2 ブラックで2回塗装し、タッチ入れはH69 RLM75 グレーバイオレット。胴体とは異なり、基本塗装、タッチとも上下や前後方向の筆目は入れず質感に変化をつけている

9



▲全体のタッチ入れが終了し、ここでデカールを貼る。デカール周囲の余分なニスウェザリング等で目立つかと思いきや、実際はほとんど目立たないので心配は無用

10



▲デカールが完全に乾燥したらH21 グランプリホワイトでデカールに退色表現を施す。希釈濃度は機体本体のタッチ入れと同じ、全体と馴染ませるように色を置いていく

11



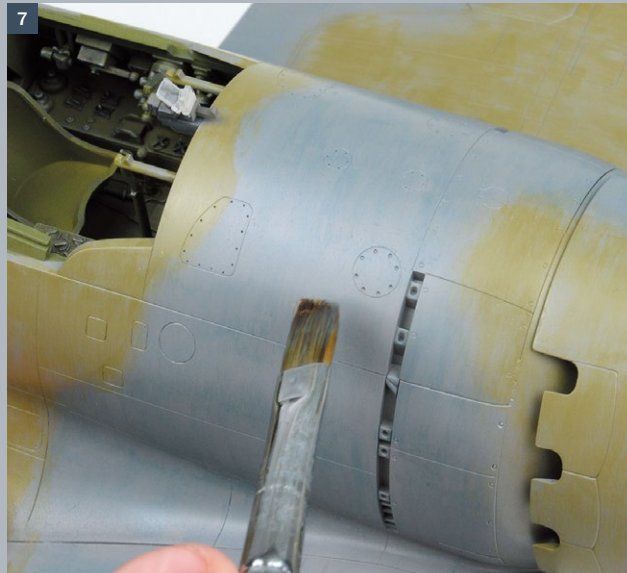
▲パネルラインを気持ち引き立たせるように、を意識しながらパネル面の内側にタッチを入れていく。くわえて機体上面と側面とは光の加減なども勘案して強弱をつけている

6



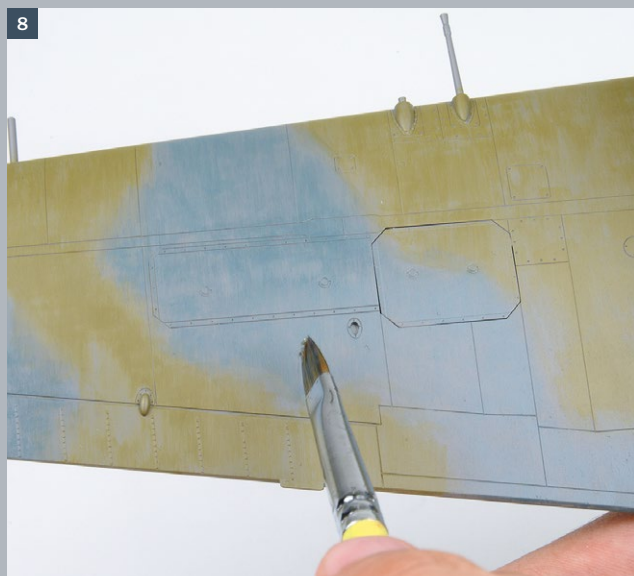
▲機体の基本塗装2色目は、H515 ジャーマングレー／グラウ(退色)。希釈濃度はかなり薄め、機首周りは完成時に視線が集まるポイントなので、メリハリの塩梅を考えたが塗っていく

7



▲2色目の2回目。水性ホビーカラーの特性として乾燥時間の早さがある。希釈濃度は薄めだが、思っている以上に塗ったそばからどんどん乾いていくので手早く塗っていく

8



▲2色目の3回目では、かなり色が乗っているのが確認できる。主翼の筆運びは前後方向、塗料は思ったほど"伸びない"ので筆のストロークは短めとなる

9



▲機体下面色は、H75 ダークシーグレー。基本塗装の1回目なので一見、色が乗っていないように見えるが筆目はしっかりついている。繰り返すが"塗りつぶすこと"が目的ではない

10



▲機体下面のH75の3回目。パネルラインやディテールを浮き出させるように下地を残しつつ、塗り重ねの強弱が付けられている。塗料の濃度は薄くても充分に色は乗る



▲機体塗装の全体の様子を見ながら、メリハリが足りないと感じた箇所には追加で色を乗せ、表情を付けていく。ただしこの後、タッチの行程を施すので、ほどほどで止めておく

4. ウォッシング WASHING

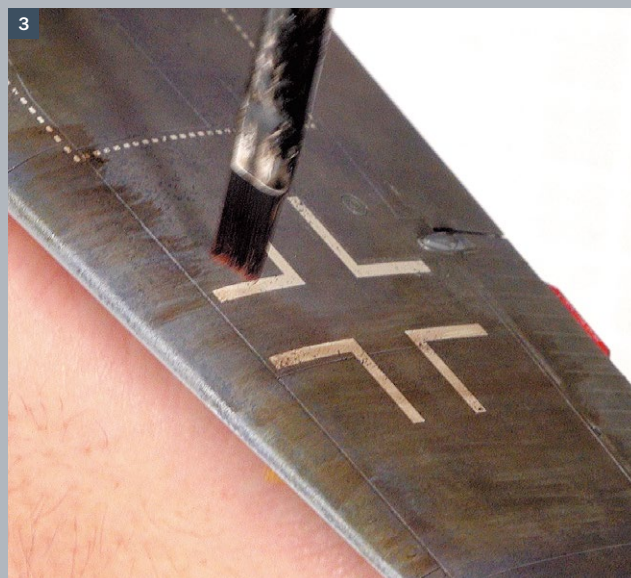
使用するのはスミ入れ塗料のビン底に沈殿した濃い目の部分。筆は傷みやすいので安価な平筆で充分だ。拭き取りの面棒は先端が通常の丸いものと尖ったものとを併用すると効率上がる。また綿棒は汚れ過ぎたり、ほつれたりする前にどんどん交換していく。ビッグスケールの機体ではパネルごとに拭き取りを行なうとパネル面ごとに表情に変化が生じ、均一化を防げる



▲ウォッシングのスミ入れ塗料の塗布では筆目の方向などは考えずに、ある程度の面積をまとめて塗ってしまうが、全体を一気に塗ってしまうと拭き取り忘れ等発生するので注意



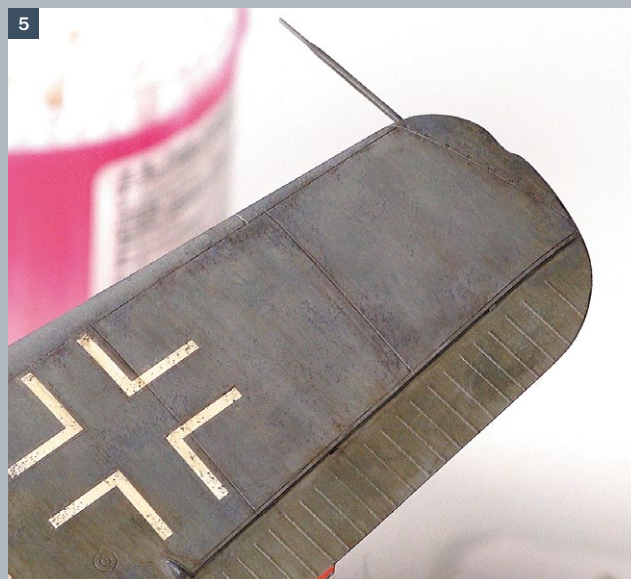
▲ウォッシングの拭き取りはエナメル塗料用うすめ液に浸した綿棒を使用。拭き取る方向は、胴体は上から下に、主翼と尾翼は前から後ろに向けて、が基本



▲スミ入れ塗料の濃度が濃い目であることが筆目からも確認できる。拭き取り過ぎたと感じたらもう一度塗布してやり直せるのも、この工程のメリット



▲塗布するのはある程度の面積を纏めてで良いが、拭き取りはパネルごとに行なった方が変化が付きやすい。くわえてパネルラインに塗料も残りやすいのでスミ入れ効果もアップする



▲動翼部との拭き取り具合の差で、ここまで変化が付いているのがわかる。拭き取る動きを前後方向にしているの、自然な気流の流れを感じさせるスミ入れ塗料の層も見て取れる



AIRCRAFT DESCRIPTION

FOCKE-WULF Fw190D-9 LATE VERSION

III./JG2 MAY 1945 GERMANY

第2戦闘航空団が最後期に運用した機体 Fw190D-9後期型の1機、黒の6。

1800機余りが生産されたフォッケウルフFw190D-9の中で150機程度がTa152の垂直尾翼を装着した後期型と呼ばれている。しかし実機写真が少なく、諸説あるが確認されているのは2機のみといわれている。この作例の機体、製造番号W.Nr.500645はそのうちの1機で、所属は第2戦闘航空団(JG2) 第III飛行隊第8中隊。黄白黄の帯が防空部隊識別帯で第2戦闘航空団を表し、胴体鉄十字の後ろの縦棒が1941年以降に制定された第III飛行隊の標識。標識、機番の黒は第8中隊を表している。機体の迷彩は、制空権を奪われた1944年後半から地上からの

視認性を優先して再びグリーン系の迷彩とするよう空軍省からの指示があったのでグリーン系と思われるが、1945年になると塗料の供給もままらなくなり、各メーカーはストックの塗料で体裁を整えるのが精いっぱいであった。また空軍省が迷彩指定色の説明をしなかったケースもあり、写真から正確な色調の判別はほぼ不可能でもあることから、この機体の塗色も推定でしかない。スピナーのスパイラル塗装は高射砲避けといわれ、一部の機体が緑起担ぎとして施していたが1944年7月から単発・双発戦闘機の標準塗装となっている



ADVANCED APPLICATION 2

応用編2

ドイツの
大戦機を作る



CHAPTER 4

GRUMMAN

F-14A TOMCAT

TAMIYA
1/48 SCALE





▲エアクラフトグレイのスタンピング2回目の終了。1回目と比較してパネルラインがはっきりと浮かび上がり、全体に充分に色が乗ってきているのが確認できる



▲エアクラフトグレイの3回目開始。ここからはうすめ液を少し多めのシャバシャバな濃度に調整してスタンピング。テクスチャーの粒子がやや大きくなり、質感が大きく変わる



▲この段階ですでに塩害などの極色表現に見えているのだが、この工程での目的はスタンピング粒子サイズの変化によるテクスチャー作りだ



▲うすめ液による希釈量を変化させることで、より複雑なテクスチャーを得られる。資料を見て実機のどこが汚れるかを確認しつつ、しかし実機に忠実というよりは全体のバランスを優先



9784499234214



1920076036002

ISBN978-4-499-23421-4 C0076 ¥3600E

定価(本体3,600円+税)



SIM SONIC DESTRUCTION 2

清水 圭 飛行機模型筆塗り塗装テクニック 2

Kei Shimizu

